

平成27年度学校経営計画自己評価計画書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。	① ICT機器等を活用しながら、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	不登校を経験しているなど多様な生徒がいるため、学力差が大きい。	【成果指標】 授業改善に取り組み、わかりやすい授業を実施し、生徒の理解を深める。	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	前期・後期の2回調査  授業評価を活用
	② 生徒が学習に集中し、主体的に取り組むようにするため、発言や活動の場を設ける。	教務課 各教科	授業態度は落ち着いてはいるが、受け身の生徒が多く、学習に対して消極的な姿勢が目につく。	【成果指標】 生徒が授業中発言や活動をし、達成感を感じる。	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	前期・後期の2回調査  授業評価を活用
2 学校生活全般を通して、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒指導便りや遅刻0ウィーク等を通して生徒・保護者への働きかけを行う。	生徒指導課	自己責任による欠席・遅刻・早退が見られる。また、始業時間に遅れる授業遅刻も多い。	【成果指標】 欠席・遅刻・早退を減らそうとしている生徒の割合を増やす。	意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	前期・後期の2回調査
	② 各種教室（非行防止教室、人権講話等）の開催により、規範意識を高めるとともに学校生活を通してルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	規範意識が定着していない生徒やルールやマナーを意識して行動することができない生徒が見られる。	【成果指標】 ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合を増やす。	ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	前期・後期の2回調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	現在、就業していない生徒が増加している。また、インターンシップを体験した生徒も少ない。	【成果指標】 就業していない生徒が、インターンシップ等を通して勤労観・職業観を身につけ、自立する能力の向上が見られる。	現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 70%以上である B 50%以上である C 30%以上である D 30%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	8月と2月に調査
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	新規会員加入が減少し、毎年会費を継続して納めている会員が固定化している。	【努力目標】 会員への情報発信に努め、インターンシップ等の受入企業を増やす。	インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 3社未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	5月と2月に調査
4 食生活に対する正しい理解と望ましい食生活の定着を図る。	① 給食時に個別指導を行う。また、保健便り等による情報提供を行う。	保健厚生課 各担任	食事の時間や内容にばらつきがある。また、欠食や偏食がある。	【成果指標】 食に対する理解を深め、効果的な食事を摂ることのできる生徒の割合を増やす。	食事の重要性を理解し、意識的に望ましい食事を摂ることのできる割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	CまたはDの場合、取組方法を再検討する。	5月、9月および2月に調査
	② 栄養士による生徒・保護者への食育指導を行う。						